課題名：プロペンシティスコア解析を用いた急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術における予防的ドレーン留置の臨床的意義に関する検討 （CSGO-HBP-017「胆嚢ドレナージ後の腹腔鏡下胆嚢摘出術の至適時期に関する検討」の副次解析）

<目的および概要>

胆嚢結石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術（Laparoscopic cholecystectomy, LC）における予防的腹腔内ドレーン留置は一般的に不要とされているが，急性胆嚢炎に対する LC における予防的腹腔内ドレーン留置の臨床的意義について，いくつかの randomized control trial が行われているが，十分に明らかにされておらず，主要ガイドラインにおいて言及されていない．今回，当院を含む大阪大学消化器外科関連施設で施行した後ろ向き試験（CSGO-HBP-017）の副次解析を行い，急性胆嚢炎に対するLCにおけるドレーン留置の有無別の手術成績を評価し，その臨床的意義について検討する．

<研究方法>

2011 年 1 月から 2016 年 9 月に術前ドレナージを施行した急性胆嚢炎における LC 症例 347 例中，術中偶発症，胆嚢亜全摘，開腹移行症例を除外した 283 例を対象とした．ドレーンを留置した 134 例（留置群）と留置しなかった 149 例（非留置群）の患者背景，手術因子，また術後アウトカムとして術後合併症 （Clavien-Dindo 分類 Grade2 以上）および術後在院日数を比較検討した．次に，プロペンシティスコアによる 1:1 マッチング法（PSM）により，背景，手術因子を揃えた各群 91 例ずつの割付を行い，同様に術後アウトカムを比較検討した．

<研究成果発表>

学会等や誌上での報告を行います．個人名や個人情報が公表されることはありません．

<研究者>

消化器外科：髙市翔平，橋本和彦　他

<問い合わせ先>

本研究に関するお問い合わせや診療情報の利用を望まれない方は，下記までご連絡下さい．

兵庫県立西宮病院　医事課
電話：0798-34-5151 （代表）